

3-16. 奄美群島広域事務組合（鹿児島県奄美市）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

平成 25 年度中の国立公園指定を見据え、平成 25 年 1 月の政府による「奄美・琉球」の世界自然遺産暫定リスト掲載を登録に向け力強く推進するために、近い将来奄美群島の観光のキラー・コンテンツとなる自然環境の保全と活用を両立させるためにエコツアーガイドの登録・認定制度に取り組んでおり、各アクティビティでの活躍が見られている。

また、エコツーリズムにおいては多種多様な組織連携の中で地域住民との関わり合いが非常に重要であると考えられ、地域住民が地域の資源（宝）の価値を見いだすことにあることから集落散策を中心としたエコツーリズム推進への取組が見られ始めている。

(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 25 年 3 月 14 日（木）～ 平成 25 年 3 月 15 日（金）
場 所	奄美大島：住用町 見里集落、ナイトツアー（三太郎峠） 徳之島：伊仙町 アマミノクロウサギ観察小屋（天城町）、阿権集落（伊仙町）、メランジ堆積岩（伊仙町）
アドバイザー	文教大学 国際学部 准教授 海津ゆりえ 氏
参加者	【奄美大島】 ヤムラランド、奄美市住用総合支所、奄美市企画調整課、奄美市袖観光課、奄美大島エコツアーガイド連絡協議会会長、環境省、奄美群島広域事務組合 【徳之島】 徳之島エコツーリズム推進協議会、徳之島エコツアーガイド連絡協議会、NPO 法人虹の会、徳之島町地域営業課、天城町企画課、伊仙町企画課、奄美大島エコツアーガイド連絡協議会会長、環境省、奄美群島広域事務組合
スケジュール・方法	主に集落案内を中心とした現地踏査 【1日目】 奄美大島：住用町見里集落散策～ヤムラランドと座談会～ナイトツアー 【2日目】 徳之島：アマミノクロウサギ観察小屋～阿権集落散策～座談会～メランジ堆積岩見学



(3) アドバイスの内容

●1日目：奄美大島

- ・ 奄美市住用町においては地域住民の自然保護に関する意識醸成を目的として、自然環境保全への啓発活動（先進地講師派遣、地域美化活動）を行い、地域住民に対し世界自然遺産登録への関心を促す取組がある。
- ・ また、その活動を通し客観的に地元を見直す事による、地元住民しか知り得ない自然環境（宝）を観光メニュー化させる事を目的に地域ネットワーク体制構築を足がかりに、次年度には自主運営ができる体制（NPO法人化）を整えることを目標にしており、地域が受入主体となる観光への初めての挑戦に対してのアドバイスをいただきたいと考えた。

（アドバイザーのコメント）

- ・ ビジネスとしての観光を立ち上げることが目標ではあるが、ベースは地域の宝さがしがなければならない
- ・ オール地域・ワン奄美が重要
- ・ 地元ガイドに熱意があってガイドランスに表れていて観光客に伝える上で重要であるが、地名や地形図・写真等を示しながら案内することも必要
- ・ 地域の言葉（方言）を使つての案内も地域でしかできないものではないか
- ・ 奄美は海のイメージであるが、山と海が一体となったコースの造成が必要
- ・ 今回のコースにおいては、歴史・文化に重点を置いていたが、鳥の鳴き声や植物等も豊富なので分野毎のガイドも必要
- ・ ゴミ（漂流物）清掃が必要
- ・ 「聖なる地」が存在するため、マナーやルールを徹底すること（手を合わせる等）
- ・ 奄美においては豊かな自然地域と里山地域とが混在している地域である為、自然ガイドと里山ガイドとの線引きは必要である。しかしながら、里山地域についてはシマ特有のおもてなしの心からボランティア感覚で案内を行っているが、持続可能にするためにも料金を取るのは妥当である。

●2日目：徳之島

- ・ エコツーリズム推進協議会が設立されており、エコツーリズム始動期にある。
- ・ 本集落には「むらづくり委員会」があり、多種多様な団体で構成され、集落行事等への提言を行っている。また、地元NPO法人においては環境関係の活動を行っており、観光客への印象形成をする観点からエコツアーの造成の検討をしているが、エコツーリズムをどのように捉え、どのような仕組みをつくれば良いか、どうすればエコツアーを地域から生み出せるか試行錯誤している。

（アドバイザーのコメント）

- ・ 素材が豊富でガイドの熱意が伝わり楽しめるコース設定
- ・ 鳥の鳴き声や季節毎の作物等生活に関する情報の掘り起こしも必要
- ・ 集落全体が博物館になっており、さまざまな要素が詰まっている。「エコミュージアム」になり得る
- ・ 観光パンフレットについても点でしかないのでは線につながるような見せ方が必要
- ・ 文化財の場所を地図に落とし込む
- ・ 季節毎に何を見せるのかを考えプログラム化（フェノロジーカレンダー）の作成

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 地元ガイドに対してアドバイザーの評価が非常に高かったことで、自信につながった。
- ・ 地域の資源を発見し活用する仕組みである、宝探しについて関心が高まった。
- ・ 自然プロガイドと集落歩きガイドを差別化することで、役割分担が明確になった。
- ・ 地域自身が地域を主体的にマネジメントすることへの気づき



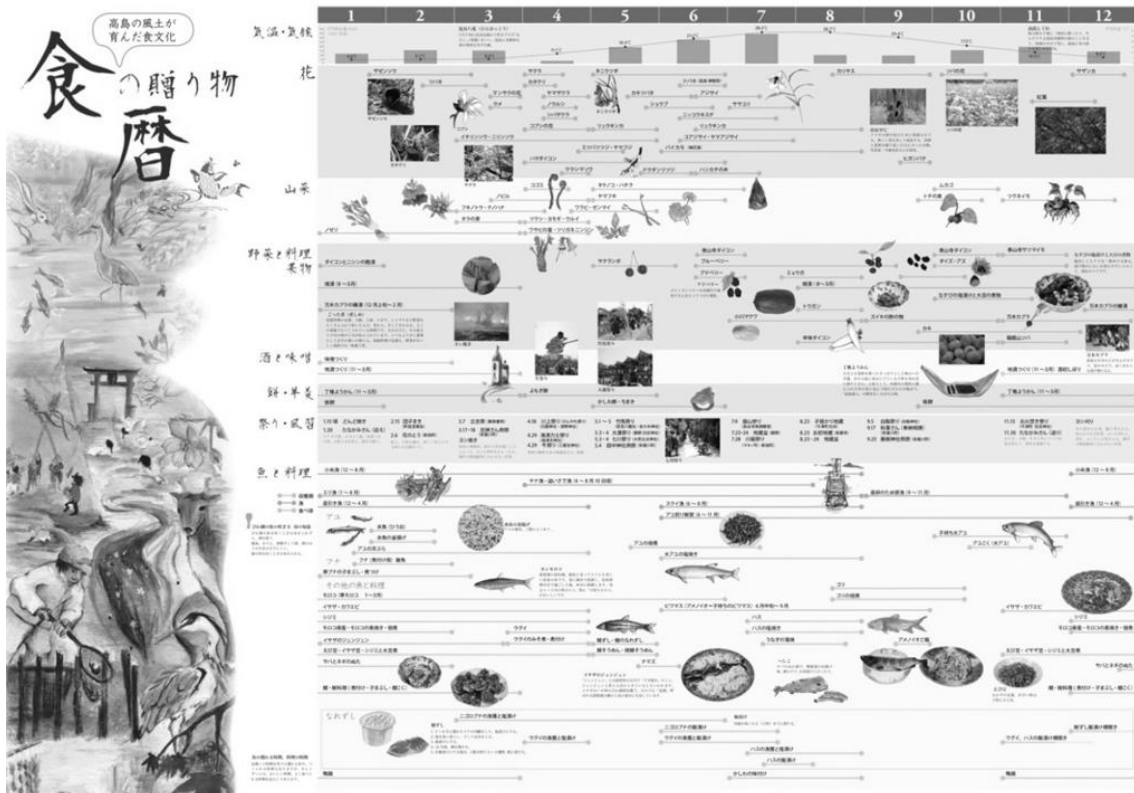
●今後の期待される効果

- ・ 地域が受入主体となる観光の確立（NPO 法人化）や、プロのガイドがつくる商品だけではなく、地域主体による「手づくりのコース」の確立 ⇒ 持続可能な観光へ
- ・ フェノロジーカレンダーを作成することによる地域資源の発掘及び価値の認識

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・ 「宝さがし」をもとに作成する「フェノロジーカレンダー」
- ・ 自然界の変化のみではなく、宝の 5 分野「自然」「生活の知恵」「歴史」「産業」「人」を対象に、地域における自然と人間との関わりを季節の移り変わりの中に表現するもの
⇒観光関係者だけでなく、環境教育の場での活用にも期待できる



(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

文教大学 国際学部 准教授 海津ゆりえ 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

1. 奄美群島全域におけるエコツーリズム推進の現状

今回のアドバイス対象地域である奄美群島は、今年1月、世界自然遺産登録暫定リストに記載された。今後、国立公園化（平成25年度中予定）を経て3年後を登録目標年度と見据えており、これに備えた観光受入やエコツーリズムの体制確立を目指している。

この流れに先立ち、平成15年9月に策定された「奄美群島自然共生プラン」で環境保全型自然体験活動（エコツーリズム）の推進がうたわれており、これが群島でのエコツーリズム推進の上位計画となっている。他島に先駆けてエコツアーガイド事業者が多く活動していた奄美大島で平成20年10月に「奄美大島エコツアーガイド連絡協議会」が設立され、自主ルールの策定等に取り組んできた他、平成21年度から24年度にかけて、奄美振興開発事業を活用した国土交通省事業「エコツーリズム推進人材育成事業」が進められ、各有人島で公開講座や勉強会が開催されてきた。

これらを踏まえ、平成25年度中には「奄美群島エコツーリズム推進協議会」が設置される予定であり、それに向けて各島での枠組みづくりが進められている。各島での取組は、現状での熟度や人的体制によって対応状況が異なっており、全有人8島のうち奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島でエコツーリズム推進協議会とガイド連絡協議会が設立ないしは準備中である。これらにより、平成25年度以降は群島レベルの推進協議会と各島レベルの推進協議会の二階構造となる予定である。

体制づくりの実施機関は、今回のアドバイザー派遣事業の申請者である奄美広域事務組合である。同組合は奄美群島全域に関わる事業を執行する組織であり、群島各島々の役場職員の出向者により構成されている。奄美群島広域事務組合資料によると、各島における推進体制づくりの進捗状況は以下の通りである。

表 奄美群島におけるエコツーリズム推進体制

島名	エコツーリズム推進協議会		エコツアーガイド連絡協議会		
	設立	年度	設立	年度	人数
奄美群島	予定	平成25年度	—	—	—
奄美大島	済	平成24年度	済	平成20年度	60名
喜界島	済	平成24年度	予定	平成25年度	—
徳之島	済	平成24年度	予定	平成25年度	—
沖永良部島	済	平成24年度	済	平成24年度	16名
与論島	済	平成24年度	予定	平成25年度	—
計	—	—	—	—	76名

今年度のアドバイザー事業で訪れたのは、このうち奄美大島（奄美市住用村）及び徳之島（伊仙町）であった。以下に2地区に関する推進状況について述べる。

2. 奄美大島（住用地区）

奄美大島は平成 20 年度にエコツアーガイド連絡協議会を設立する等、奄美群島で最もエコツーリズムへの取組が進んでいる。特に、自然を対象とするエコツアーガイドには実績ある事業者が多いが、今回のアドバイス対象地域である住用地区見里集落は、地域主導によるエコツーリズム推進に取り組んでおり、今後各地区に対するモデル的な役割を担うことが期待されている。

見里集落は 35 代に遡る系図を有する古い集落で、奄美創造の神が宿る神山（湯湾岳）から集落へと神が下り海へと至る「神道」が今に残る稀有な村である。集落の辻や角、屋敷の裏道等にそれらの神道や神の居る場所が点在し、集落の人々の信仰心によって美しく保たれてきた。正月に餅を飾るブーブルノキと呼ぶリュウキュウエノキや製糖工場跡、お宮や相撲道場、ジュゴンがすんだ内湾、平家の落人が鍛冶屋を営んだ場所、塩田跡等先祖が遺してくれた生活文化遺産がそこここであり、言い伝えがある場所は聖地として大切に伝えられている。

住用村では「すみようヤムラランド」を結成し、「離島の活量再生支援事業」等を活用してこの遺産を語り継ぎ、世界自然遺産登録後に備えるため、①住民による観光受入体制づくり、②保護意識の醸成、③観光メニューの開発、④ICT の活用等の目標を掲げて地区と行政一体となった取組を行ってきた。平成 22 年度、23 年度には「奄美しま博覧会」に観光プログラムを出展する等実績を積んできた。生業としてのガイドを育てるというより、集落での受入体制づくりを志向している。その背景には人口減少という直面する課題と、他の世界自然遺産指定他地域における指定後の観光入込動向によって生じる生活文化への負荷を回避したいという意向がある。後者に対する懸念が強く、集落が観光客受入に対してイニシアチブを取ることを目指している。



リュウキュウエノキ

3. 徳之島（天城町・伊仙町・徳之島町）

平成 24 年度にガイド連絡協議会が設立された。同連絡協議会の主力メンバーは今回のアドバイザー事業でガイドツアーを体験することとなった「NPO 法人虹の会」である。同 NPO は役場職員や I ターン者、U ターン者等で構成され、各地区住民と連携しながら徳之島全域ガイドを実施している。

参加した伊仙町阿権集落におけるガイドツアーでは、伊仙町観光協会との連携により阿権集落の有力者の屋敷を中心とする集落内散策を体験したが、各家との協力関係が構築されており、同 NPO によるツアーの際には集落内清掃やお茶のサービス等があった。ただし同 NPO では料金設定をしていないとのことから、現状のままでは一方的な協力やサービスの提供となる可能性があり、受入にあたってのシステム化が望まれる。



内海にて昔の海のようにすを聞く。

ガイドは区長の川畑氏

●アドバイス（講義等）の概要

1. 奄美大島

奄美大島では住用地区公民館にて「すみようヤムラランド」に対するアドバイスを行った。内容としては、ヤムラランドによる集落散策ツアーに対するアドバイスと住用地区に対するアドバイスの2種類である。

(1) ヤムラランドによる集落散策ツアーについて

集落の生活と精神世界、自然、景観、土地にまつわるエピソードが深く結びついており、まさに一つの宇宙である。エコミュージアム、まるごと博物館等と呼んでも良いし、集落景観は「文化的景観」として見つめることができるであろう。住民の思いがこめられたツアーであり、小さな道一つにも意味があることが伝わってきた。魅力を知って訪れる観光者に対して感動を与える地域であることは間違いないが、案内には心ある知り合いを案内するレベルから不定期に訪れる観光案内レベルまでである。今後に向けて次のことを奨める。

①地図作りを通じた集落内での地域検証

地域資源の継承と磨き上げを進めるためにも集落の地図づくりと検証作業を行ってほしい。その上で案内する場所、聖地として控える場所等を地域内で検討すると良い。

②語り部の養成

現在は区長さんを始め集落の方々の知識によって案内されているが、今後のためには語り部の養成が必要となる。世代を継ぐ語り部を養成することにより、宝を守り伝える運動につなげてほしい。

③自然等多様な視点からみたガイドメニューづくり

歩いている間に、野鳥の声が聞こえ、魚が跳ねるのを見た。生活文化以外の専門性を持つ語り部も養成し、同一コースでも多様な角度から楽しめるメニューづくりを進めると良い。

(2) 住用地区に対するアドバイス（集落主体型エコツアーの体制づくり）

事前に作成したパワーポイントを用いて、他地域事例を多用しながら「地域で進めるエコツーリズム」に必要な事項についてアドバイスをした。柱としたのは、①宝探しの推進、②連携体制づくり、の2点であった。

特に、前者について強調した。世界自然遺産への登録は必ずしも地域の「宝」すべてを認定する制度ではなく、対象資源となるものはクライテリアに照らして決められるものであることから、地域は世界遺産となることを誇りとしつつも、地域の宝の価値を認識する枠組みと運動が必須であることを伝えた。その手法として、岩手県二戸市で行政主導で進めている宝探しや、滋賀県高島市で進めているフェノロジーづくり、福島県裏磐梯で進めているエコツーリズムカレッジ等の手法を紹介した。

後者は西表島、裏磐梯、小笠原等の事例を参考に、行政と住民だけでなく、望ましい観光者を地域につないでくれる事業者や研究者との連携が必須であることを伝えた。

2. 徳之島

徳之島では伊仙町観光協会やNPO法人虹の会等、伊仙町で活躍するガイドの方々と住民に対するアドバイスをを行った。内容としては体験した阿権集落内ツアーへの感想と、質疑応答の形でのアドバイスを行った。

(1) 阿権集落散策ツアーについて

農村風景の中に100年以上前から建つ名家の佇まいや、さりげないおもてなしが魅力的なツアーであった。集落の屋敷林やガジュマルの巨木とその言い伝え等は他地域にはない独特の景観である。薩摩文化と琉球文化がミック

スされた奄美独特の文化の形成という説明も興味深いものであった。歴史遺産と生活文化が伊仙町のひろびろとした景観の中で融合し、文化体験を望む観光者にとっては忘れがたい経験を提供できると思われる。

ひっきりなしに野鳥が鳴き、農村が広がっていることから文化だけでなく自然観察やグリーン・ツーリズムと組み合わせたエコツーリズムが展開できると思われる。

(2) 質疑応答型アドバイス

現状での課題を聞きながらアドバイスを行った。主な質問とそのアドバイス内容は以下の通りである。下記のうち「フェノロジー」の作成については質問が集中し、今後、フェノロジーの作成を集落で進めたいという希望が強くなった。

【質問1】 プログラムメニューの開発に課題を抱えている。徳之島は亜熱帯の照葉樹林がある、日本の中で雲霧林を持つのは湯湾岳と阿権だけである、アルカリ性土壌を持つ伊仙町の地質の面白さ等小さな魅力はあるが、「縄文杉」に匹敵するような目玉がない。

【アドバイス】 縄文杉を無理に作る必要はない。屋久島の課題は、世界遺産地域の目玉が「縄文杉」とされてしまったが故に一極集中を招き、屋久島の他の資源や魅力が相対的に低く見られていることにある。これを反面教師とし、年間を通じた資源の暦（フェノロジー）を作り、季節ごとの魅力をプログラムに置き換える活動を地域ですれば良い。

【質問2】 キャッチコピーが作れない。徳之島の魅力を一言で表せないと観光商品が作れないのではないかと。

【アドバイス】 資源の掘り起こしをしないでキャッチコピーを作ろうとすると、通り一遍の言葉しか出てこない。一つに言葉を絞らなければならないという呪縛を解いて、上記の暦づくりをしながら魅力を積み上げて、そこから出てくるものを待てば良い。

【質問3】 ガイド料金をどう設定するべきか。半日、一日それぞれ適正価格はいくらか。

【アドバイス】 ガイド料金は、提供するサービスの内容や実費、地域周辺での相対的な価格等さまざまな要因で決まるので、一概に「いくらなら」ということは言えない。他地域の事例や実費の割り出し、積み上げ等を研究することを勧める。アドバイスとしては、無料でのツアー提供はすべきではないこと、地域への還元を明文化して双方にメリットが納得できる設定をすること。料金は改訂できる。

【質問4】 ゴミ問題が深刻である。不法投棄や盗掘が絶えない。貝塚時代からの谷捨てがそのまま現在に引き継がれてしまっている。住民が原因である場合が多い。どうしたら良いか。

【アドバイス】 子どもたちへの環境教育を通して大人に波及する方法があるが、まずは投棄されたゴミを多くの人に参加してもらって片づけること。行政との連携も必須である。海岸の漂着ゴミであれば、JEAN という団体が全国の海岸でのボランティア清掃とゴミの調査を行っている。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

日程の制約もあり、短時間の滞在・視察とアドバイスとなったが、現地の方々の手際良い運営のおかげもあり、密度の濃い事業となったことを改めて感謝致します。奄美群島全域に関する印象と個別の島々、地域に関するコメントをいたします。

1. 奄美群島全域

世界遺産他地域を他山の石とするという姿勢は、皮肉な話ではありながら集落をまとめ、広い群島を同じ方向に向かうように誘うためには有効なことと思います。屋久島や知床の現場の方々との連携を密にされると良いと思います。

群島は島数も多く、広いので同じレベルや熟度で同時推進するのは困難であろうと思います。でも同じ目標やプロセスを持つことはできるはずです。エコツーリズムで奄美の個々の島々の何を守り、何をしようとしているのかを明確にし、「一つの奄美」としてのブランドイメージを確立していただければと思います。そのために、人材育成やルール作り等を奨められると思いますが、その際に「エコツーリズム」だけに適用するものではなく、奄美観光を包含するような大きな指針（ガイドライン）づくりを行い、奄美の観光＝エコツーリズムを目指すことが望ましいと思います。

複数自治体・諸島域全体をまとめて一つの推進協議会を構築し、推進法の認定をとるという例は未だありません。意思決定プロセスが多段階となり会議も増えることと思いますが、エコツーリズムは持続可能な地域社会をつくるための運営システムづくりとイコールですので、議論を重ねただけ地域づくりも進むと思います。世界遺産、国立公園とエコツーリズムの連携例としてモデルとなるはずですので、ぜひ頑張ってください。



神道

2. 奄美大島住用村見里集落

集落のたたずまいや聖地として大切にされてきた場所と、神道を大切に守ってきたというお話が見事に融合して、とても神高い場所を訪れたのだ、という実感と誇りが生まれました。区長さんの熱い語り口も大きな魅力で、「どこへ行くのだろうか？」と思いながらぐいぐいと引き込まれていきました。最後に太平洋に抜けるハイライトは圧巻でした。ぜひこの誇り高い皆さんの集落を守り、伝えていただければと思います。

そのためには、現状はとても脆弱だと思います。内なるルール、外へのルールを「掟」として作り、アピールすることをお勧めします。幾つかの事例があります。沖縄県竹富島では、島外業者による土地買占め等の苦い経験をもとに「島民憲章*」（売らない、汚さない、乱さない、壊さない、活かす）を作り、集落内に掲げて島外者へのルールを暗黙に伝えています。滋賀県高島市針江地区は、山からの水を集落内にめぐらす「生水の郷」として知られ、NHK放送をきっかけに日本の里山として人気があります。ふらりと訪れて集落内を歩く観光者を地域でコントロールするために、集落で「委員会」を結成し、連絡先を掲示して受け入れを始めました。一方で、竹富島は最後の船が出て行ったあとに集落総出で道を掃除して美化に努めています。

見里地区には神道や聖地が多数ありますので、現代の神道や聖地として、観光者も事業者にも守ることに「協力」してもらおうよう、訴えていくことができると思います。

*沖縄県竹富島の島民憲章：<http://www.mlit.go.jp/common/000138911.pdf>

3. 徳之島

①阿権集落

阿権集落の魅力は100年変わらぬ農村集落の社会と景観が残っていることだと思います。それが当時の建築や集落の構造等を動態のまま残し、伝えていきます。ケムムの力かもしれませんが、歴史あるものを大切にしてきた人々の生きざまであり、生活文化景観の動態保存の好例であると思います。道も庭もとてもきれいに管理されているので、一人で散策してもとても気持ちの良い場所でした。ただ、居住エリアであり、無尽蔵に観光者を受け入れる場所ではないと思いますので、収容量やルール（マナー）を決める等の工夫が必要だと思います。



平家（たいら・け）の屋敷。石積みが見事

阿権集落では、地区ごとの村づくり委員会と島全体をカバーしてガイドを行うNPOが連携してツアーを実施していました。今後同様のツアーを島内各地で作っているとのことですので、地域とNPOが連携して観光者受入体制を作っていくことになると思われますが、その際に意思決定と利益配分等を合意するための「場」と「ルール」が個別に必要になると思います。阿権でモデルが作れることが期待されます。また、「虹の会」と類似するNGOが誕生することも予測されます。その際には排除せず、地域づくりの仲間が増えたと受けとめて新たな「場」を設ける、という展開ができればと思います。その時に力を発揮するのが持ち前の「結」でしょうか。

ご提案したフェノロジーづくりと地元学はぜひ始めて、そして続けてください。一回やれば終わるというものではなく、継続していくことで新しい人や若い世代、子どもたちが参加したり、新たな宝が生まれたりするものです。例えばガイドウォークは面白かったのですが、もっと歴史的検証等を進めていただくと、僅かな時間のガイドでも味わいが違ってきます。ちなみに、後日調べたところ、平さん宅の陶器のトイレは明治から昭和初期にかけてのもので、恐らく近郊の瀬戸物屋さんが作ったものではないかとのこと。流通が盛んだったことから、遠方から船で運ばれたものかも知れません。

②メランジ

徳之島の地質の面白さを如実に伝え、かつ海岸の土地と人のつながりがリアルに分かるとても良いジオサイトだと思います。「ジュツ」と音を立てて沈む夕日も味方につけて、ぜひ大人向けの素敵なツアーを作っていただければと思います。



メランジのある海岸

